

平成26年 関西元気文化圏賞 贈賞理由



関西元気文化圏推進協議会

大賞

あべのハルカス (近畿日本鉄道株式会社)

2014年3月に全面開業。四天王寺など歴史ある寺社も多い大阪の阿倍野・天王寺エリアに高さ300mの日本一の超高層ビル誕生として国内外で話題となった。駅、百貨店、美術館、オフィス、ホテル、最上階から大阪平野が一望できる展望台など、先進的な都市機能を集積した新たな立体都市としてデザインされ、美術館では、東大寺展や高野山展など関西の魅力ある芸術文化を紹介し、気軽にアートを楽しめる空間も提供した。半年足らずで約2,200万人を集客し、新たな大阪のランドマークとして、関西の魅力を国内外へ向けアピールするのに大いに貢献した。



特別賞

宝塚歌劇団

1914年4月に関西(宝塚)での初演以来、オペラ、レビュー、歌舞伎、新劇など様々な要素を取り入れながら独創的な世界を創り上げ、関西を拠点に人々に夢や希望、明るさ、感動を与え続けてきた。昨年100周年を迎えたそ



©宝塚歌劇団

の活躍は、国内に留まらず、1938年のヨーロッパ公演以降の海外公演で、宝塚固有の舞台芸術を世界にも広め、日本の演劇史上に輝かしい軌跡を残している。今年には台湾公演を計画、アジア進出の新たな一歩を踏み出した。その長きにわたる活動は、関西発祥の文化の代表として世界に誇る文化芸術となっており、日本文化に与えた功績は大きい。

公益財団法人 祇園祭山鉾連合会

ユネスコの無形文化遺産である京都祇園祭山鉾行事において幕末の蛤御門の変で焼失した大船鉾が復元し巡行に復帰する年に合わせて、49年ぶりに後祭を復興した。この復興は、1100年以上続く祇園祭本来の姿を、正しく後世に伝えることが自分たちの使命であるとする京都町衆の心意気の高さが原動力となり、山鉾行事の主宰者である祇園祭山鉾連合会が足掛け4年をかけて実現。日本の伝統・文化を大切に



する姿勢を京都から全国に示し、あらためて伝え受け継がれる文化のあり方として、全国から大いに注目されることとなった。

ニューパワー賞

アーツサポート関西

関西経済同友会の提言が発端となり、有識者や経済人の賛同を得て2014年4月に関西の芸術・文化を支援する民間組織を立ち上げた。募金パーティでは1,650人が集い、初年度目標の1,000万円を上回る4,000万円を調達。昨年は、文案への寄附を行い、学生を対象にワンコイン文案観劇会を実現、多数の応募は将来の観客となる若者を呼び込んだ成果といえる。既に関西一円から195件の支援申請があり、アーティストの関心も高く、今後も民による文化支援の推進が期待される。



上地 結衣 (車いすプロテニス選手)

兵庫県明石市出身。先天性の潜在性二分脊椎症により歩行困難となったが、11歳から車いすテニスを始め、その後、国内外の大会で輝かしい成績を収める。2014年には、女子車いすテニス界で、日本人初のダブルス年間グランドスラム(年内に4大会全てを制覇)を達成するとともに、アジアパラリンピック日本代表として出場し、メダルを獲得。最新世界ランキングでは、シングルス、ダブルスともに1位となり、関西から全国の人々に希望と勇気を与え、今後の活躍が期待される。



©avex challenged athletes

鈴木 愛 (プロゴルフ選手)

徳島県出身の女子プロゴルファー。中学3年で「四国アマ」を制覇、その後、鳥取県の倉吉北高校に進学し、日本ゴルフ協会ナショナルチームの育成選手として世界も経験。2014年、女子プロゴルフのメジャー大会である「日本女子プロゴルフ選手権大会・コニカミノルタ杯」にて初優勝。20歳128日でのメジャー制覇は、宮里藍の21歳83日の記録を塗り替え、同大会史上最年少勝利を更新した。日本女子オープンゴルフ選手権でも5位となり、ゴルフ界の新星として今後の活躍が期待される。



提供：産経新聞社

春野 恵子 (浪曲師)

東京出身でありながら、浪曲の魅力に触れ、関西女流浪曲界の第一人者である2代目春野百合子へ弟子入り、大阪へ活動拠点を移し、2006年に初舞台を踏む。2013年、大阪で本邦初の英語浪曲を上演し、2014年、浪曲の魅力を海外の人にも知ってもらうため、ニューヨークで史上初の英語による浪曲海外公演の実施に続き、中国、ドイツでの公演が好評を博した。浪曲界を活気づけるとともに、上方伝統芸能の魅力を関西から国内外に発信し、今後の活躍が期待される。

